

登録日時	2009 11/9 9:18	登録番号	029
行動 チーム名	雨水流出抑制・ヒートアイランド緩和研究チーム		
行動主体	<p>「雨水流出抑制・ヒートアイランド緩和に係る研究の有識者委員会」 メンバーには、学識者、官庁、関係団体、民間企業【調整中】</p> <p>(代表者) 中央大学 理工学部 都市環境学科 教授 山田正、 (事務局) 株式会社 I N A X サステナブル・イノベーション部 今井茂雄 TEL:0569-36-0280、E-mail:imai@i2.inax.co.jp</p>		
行動内容	<p>世界における大都市が直面する「都市型水害」「ヒートアイランド」などの課題を、代表的なメガシティである東京都をモデルに、保水性セラミックスを都市のビル屋上などに敷設することで、ゲリラ豪雨で問題となる雨水を一旦貯め、雨水流出を抑制（ピークカット）、晴天時に日射による蒸発冷却効果によって個別のビルの空調負荷低減や都市全体のヒートアイランドの緩和を図る。</p> <p>【効果の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水流出抑制（ゲリラ豪雨抑制）効果の検証 ヒートアイランド緩和効果の検証 都市レベルでの水管理・活用技術としての実効性評価 <p>【評価技術の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の適正かつ客観的な評価方法の開発と検証 評価方法の標準化と基準策定 <p>【制度設計】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合機能による社会的環境価値の公平配分と環境技術の面的普及促進のための施策 <p>【環境技術の広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい環境技術の普及のための広報活動 日本（東京都）から世界の大都市へ情報発信 		
課題分析	<ul style="list-style-type: none"> 東京都に代表される世界の大都市は、都市型水害（ゲリラ豪雨）やヒートアイランドなどの環境問題が顕著となっている。その結果、多くのエネルギーを消費し CO₂ を排出、また財政的な負担もきわめて大きくなっている。 都市の中小河川や下水道は、現在、1時間に50ミリ程度の降雨に対応する整備を進めているため、これを超える雨量では短時間であっても処理しきれずに都市型水害を発生させる場合がある。このような局地的な集中豪雨は、ヒートアイランド現象と局地風によって積乱雲が著しく発達し、もたらされている可能性が指摘されている。 近年、ヒートアイランドの原因の一つとして、都市化に伴う地表面被覆の変化、すなわち緑地や水面が少なくなること、雨水を一旦貯める機能が著しく低下し、自然に行われていた蒸発散量が減少して都市部で熱が貯えられるようになったことが挙げられる。この対策として、都市の緑化・屋上緑化、遮熱塗料などが進められている。 上記「都市型水害」「ヒートアイランド」の課題は、雨水の適正管理によって解決でき、本来の流れに戻す事が環境負荷を極小化し、温室効果ガスの抜本的な削減が期待できる。 		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境技術の普及と市場の健全な育成を促進するためにも、材料・機能の客観的な試験方法の確立・標準化とそれに沿った制度設計が必要である。 世界の急速な都市化の問題は、世界共通の課題であり、将来は先進国や新興国への環境技術として世界貢献が可能であり、学識者・行政の初期段階からの参画が必須である。 		